Osaka University Knowledge Archive

Title	Essays on Market Diffusion and Exclusive Dealing
Author(s)	北村, 紘
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/54301
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【6】

氏　　名	北村　紘（きたむら　ひろし）
博士の専攻分野の名称	博　士（経済学）
学　位　記　番　号	第　２３５３５　号
学位授与年月日	平成22年３月23日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 経済学研究科経済学専攻
学　位　論　文　名	Essays on Market Diffusion and Exclusive Dealing （市場成長と排他条件付取引に関する考察）
論　文　審　査　委　員	（主査） 准教授　瀧井　克也 （副査） 教　授　阿部　顕三　　教　授　二神　孝一　　准教授　石田潤一郎 准教授　石橋　郁雄　　准教授　松島　法明

論文内容の要旨

This thesis explores entry into a market from two perspectives. First, we focus on market diffusion in Part I. Second, we focus on entry deterrence by using exclusive contracts in Part II.

Part I consists of a single chapter. In chapter 1, we analyze market capacity expansion in the presence of intertemporal consumption externalities such as consumer learning, networks, or bandwagon effects. The externality leads to an endogenous shift of market demand that responds to past market capacity. Whereas market capacity grows in waves, its magnitude depends on the degree of market concentration. The competitive environment contributes to S-shaped time patterns of market capacity expansion, which is slow from the social viewpoint. On the other hand, using a low introductory price, a monopolist plans an initially larger amount of market cultivation than a competitive market capacity expansion.

Part II consists of two works. In chapter 2, we construct a model of anticompetitive exclusive dealing in the presence of multiple entrants. Unlike the single-entrant model in previous literature, an entrant competes not only with the incumbent to deal with buyers but also with other entrants. The competition among entrants then serves as a commitment such that low wholesale prices are offered to buyers when they deviate from exclusive contracts. We argue that this commitment effect becomes a barrier to exclusive dealing and that the results differ drastically from the predictions of the single-entrant framework.

In chapter 3, we construct a model of anticompetitive exclusive dealing in the presence of limited liability constraints. Because of these constraints, the incumbent cannot stay in business if a deviant buyer appears. We point out that the existence of limited liability constraints then eliminate the buyer's profit in deviating from exclusive contracts. As a result, and compared to previous studies, the possibility of exclusion drastically increases: exclusion arises even when buyers compete less intensively.

論文審査の結果の要旨

［論文内容の要旨］北村さんの博士論文「Essays on Market Diffusion and Exclusive Dealing」においては、新商品の普及についての動学的考察とそういった商品の普及を阻害する原因となりうる排他条件付取引についての考察を個別におこなっている。さらに、排他条件付取引については、参入企業が一社以上のケースと既存企業が破産制約を有する場合の二つのケースについて分析がなされた。以下、それぞれについて簡単にその要旨をまとめる。Part1: Market Diffusion においては、過去に購入している人が多いほど消費者はその商品を買いたくなると仮定したときに、市場で生産される商品の数はどのような影響をうけるのかを動学部分均衡モデルで分析している。既存研究においては、需要カーブが水平で最大需要量が事前に知られていないケースが分析されているが、本研究では標準的な右下がりの需要カーブに変えるだけで政策的含意が異なることを指摘した。つまり、既存研究では独占は消費の外部性を内部化するという社会厚生上のメリットのみが強調されていたが、右下がりの需要カーブのもとでは独占は消費者余剰を下げるため、時間とともに競争を促進する方向に政策を切り替えたほうがいいことを示した。また、右下がりの需要カーブのもとでは、産出量の増大は価格の低下をもたらすため参入に伴う自然な調整費用を生み出し、不確実性がなくとも動学分析が可能でS-shapeのdiffusionがおこることも示している。Part II: Entry Deterrence by using Exclusive Contractsにおいては、川上企業が川下企業に対し自社とだけに取引を限定するような契約を提示したときに、その契約が結ばれる可能性について分析をしている。先行研究においては、川上の新規参入が一社で川上の既存企業は十分内部留保があり破産の恐れがないケースが分析されている。そのもとでは、極端なケースにおいては、どれだけ新規参入企業が効率的であっても、その参入を阻止し消費者余剰を川下企業と川上企業で山分けすることができることが示されている。「Chapter 2: Exclusive Dealing with Multiple Entrants」では、既存研究の新規参入川上企業が１社であると仮定に疑問を持ち、それを2社とするだけで、効率的な企業の参入がおこることを示した。効率的な生産を行う新規参入企業が2社になると、既存川上企業以外にも新規参入川上企業間での競争がおこるため、新規参入川上企業は既存川上企業の限界生産性よりもかなり低い価格を提示せざるを得なくなり、このことが川下企業に卸売価格の低下を予想させ、新規参入企業に乗り換える誘因を引き起こしうるのである。「Chapter 3: Exclusive Dealing with Limited Liability Constraints」においては、既存川上企業が破産制約を持つ場合の排他条件付取引のモデルを考察している。破産制約があるもとでは、川下企業が排他条件付取引からより効率的な新規参入企業に乗り換えようとしたときには、既存川上企業は新規参入企業との競争にさらされるため破産してしまう。結果として新規参入企業が卸売価格に関して独占的地位を持つこととなり、逆に、川下企業が新規参入企業に乗り換えることの利益が減ってしまう。論文では、そのため川下企業が既存企業と排他条件付取引を結び続ける可能性が増えることを示している。

［審査結果の要旨］すべての分析に共通して言えることは、既存研究に現実的な仮定を一つ加えるだけで、結果が大きく変わることを明確に示しているということである。一つ一つの分析は厳密になされており、モデルの着想も十分示唆に富んだものであると考えられる。以上から判断して、今回提出された論文「Essays on Market Diffusion and Exclusive Dealing」は博士（経済学）として価値あると判断する。